

28P1-pm329

タミフルの意識調査

○菅原 仁¹, 吉原 真理¹, 畠山 耕平¹, 山中 美佐子¹, 佐々木 貴光¹, 和智 正幸¹
(¹(株)ツルハ)

【目的】インフルエンザは様々な随伴症状を伴う疾患であり、以前よりインフルエンザ脳症を発症した乳幼児においては、発熱後けいれん・意識障害に至る間に異常言動が認められていた。このような中、2005年に一部マスメディアにおいて、タミフルを原因としたような異常言動についての報道が繰り返されたのは、まだ記憶に新しい。この報道直後、当薬局待合室において、患者間でタミフルの異常言動が話題にあがるのを目の当たりにした。この経験から、患者がタミフル報道について、どのような印象を受け、どの程度の認識を持っているかを明らかにし、今後の薬局からの情報提供に役立てるべく調査した。

【方法】調査対象は、関東2県、東北3県に展開する、当社の調剤薬局に来局した患者とした。タミフルに関するアンケート用紙を配布し、患者の自由意思により回答を依頼した。調査期間は2006年10月の1ヶ月間とした。

【結果】タミフルの異常言動について知っている人は約70%で、マスメディアからの情報入手が約80%と最も多かった。異常言動を知った人の約70%が服用を「危険」と感じ、約40%の人が「服用しない」、「分からない」と回答した。今回の異常言動について、情報の量・質が不十分と答えた人は約70%いた。

【考察】今回の調査により、マスメディア等の情報発信のあり方に肯定的な意見や、反対意見などが多種多様あることが明らかとなった。また、薬局の情報提供のあり方についての意見も多数あった。今後、薬局としては、分かりやすい言葉で説明し、誤った認識から服薬拒否する患者を無くす事が重要であると感じた。